



平成31年度 町政執行方針

3月9日から開催された平成30年度町議会定例会3月会議で、鳴海町長と前田教育長から、まちづくりの方針である「町政執行方針」と「教育行政執行方針」が表明されました。
 鳴海町長と前田教育長が示した方針についてお伝えします。



福島町長 鳴海清春

○はじめに

平成27年10月に町長に就任し、町民から負託された4年の任期も残すところわずかとなりました。「笑顔あふれる福島の町の実現」に向けた、総仕上げの年となります。

就任以来、思いやりのある行政をめざし、まちづくり基本条例の基本理念である「町民との協働によるまちづくり」を政治姿勢の基軸とし、「がんばる地元企業等応援条例」、「元家等の適正管理に関する条例」、「人財育成基金条例」及び「がんなんかに負けない基本条例」などを制定しました。地域が元気になることで地域経済が活性化し、地域循環型の仕組みを構築するとともに、国に先駆けて実施している保育料の無償化など、地域全体で子育てを支える仕組みや、高齢者福祉の向

上及び町民の健康づくりに力を注いできたところです。国の予算を見ますと、当初段階で初めて100兆円の舞台を突破し、今年10月の消費税率10%への引き上げに備え、景気対策や幼児教育の無償化など全世帯型の社会保障制度への転換に向けた施策に重点配分した予算となっております。課題の克服にあたっては、地域が持っている優位性を最大限に生かすことで、地域力を高め、地域の産業の底上げを図り、それにより初めて、まちの発展や持続に繋がるものと考えています。

今年度はその具体的な取り組みの一つとして、岩部海岸及び青の洞窟クルーズを、一般社団法人福島町まちづくり工房に運航委託し、本格的にスタートいたします。まだまだ未熟ではありますが、若い人たちを中心に町内初の観光事業の第一歩が始まります。様々な困難が想定されますが、この第一歩が町の観光振興に繋がるよう、地域全体で支援できる体制の構築を目指していきます。

また、この度、長らく青函トンネルの北海道側の工事基



▲「第2青函トンネルを実現する会」の設立総会

地として歩んだ歴史をベースに、北海道新幹線の2030年、札幌延伸に向けて、新幹線が青函トンネルを最高速度で走ることができるよう、「第2青函トンネル構想を実現する会」を設立し、構想の実現に向けた取り組みをスタートさせました。長い道のりとなりますが、町民の皆様とを共有し、夢の実現に向けて、青森県及び関係団体と連携をしながら、町民一体となって取り組みを推進していきたいと考えています。

昭和から平成の時代へと先人たちが繋いできた「福島町」を、これから生まれてくる未来の子ども達へ脈々と伝え引き継ぐため、今の時代を生きる私達が勇気と希望を持って、この大きな変革期に臨むことなく、果敢に立ち向かい、町民の幸せと豊かさを探求する姿勢を貫き、ゆるぎない信念のもと、思いやりのある行政を職員とともに全力で取り組んでいきます。